

## 令和元年度 1学期終業式 校長挨拶

おはようございます。

今朝は、京王線、小田急多摩線、の運休により混乱したことと思います。

全ての生徒が集まっているわけではありませんが、学期の区切りとして終業式を行います。

全校集会で述べたことの繰り返しになりますが、

7月13日（土）我が硬式野球部が善戦及ばず、夏の大会1回戦で惜しくも敗退しました。負けはしましたが、とてもいい試合でした。スタンドでは吹奏楽部をはじめ、たくさんの生徒、卒業生、保護者、教職員が応援していました。心のこもった素晴らしい応援でした。グラウンドの中と外の誰もが一生懸命だったと思います。

1学期の間、体育祭をはじめ、ほんの一部ではありますが、部活動の試合や発表に足を運び、生徒諸君の一生懸命な姿を見ることができました。どんな大会でも、優勝しない限りは、必ず負けて終わりを迎えます。それは仕方のないことですが、そこに至るまでの一生懸命さは、何ものにも代えがたい尊いことだと私は思います。

ですから、負けて流す涙は、必ずしも悔しいからだけではなく、反省や後悔からだけでもなく、それまでに自分が一生懸命に打ち込んできた努力への自負、そして同じように部員や仲間たちが一心に打ち込んできた友の努力への感謝、この自負と感謝から流す涙なのだと私は思います。

さて、明日から夏休みです。夏休みには、日頃の学校生活では到底出来ないような時間の使い方ができます。これまでの人生で無かったくらい、これから先の人生でも無いくらいに、一生懸命に何かに打ち込んでください。今、自由な時間が40日間、全校生徒に平等にチャンスが与えられました。活かすも、8月31日に後悔に苛まれるのも、君たち次第です。

チャンスは平等に与えられても、結果は平等でないことを、そろそろ気が付きなさい。全て自分の責任です。本校の教育目標、「周囲や環境のせいにせず、自分の頭で考え、行動し、改善していける力を身に付ける。」です。

3年生諸君へ、今日までの成績だけで早々と進路を決めないで欲しいと思います。今の時点での自分の学力に妥協しないで下さい。半年後に向かって、さらなる高みを目指して下さい。そのために、この夏は頭と心を徹底的に鍛えよう。

2年生諸君へ、来年の夏はそれぞれの進路に向けて、勉強に没頭する毎日が始まります。ですから、この夏はやりたいことをやってみよう。勉強でも部活動でも文化祭準備でも何でもいから、自分でこれと決めたことを思う存分やってみよう。

1年生諸君へ、中学3年だった去年の夏、高校に入ったらやろうと心に決めていたことはありませんか？高校に入学して、初志を忘れ、いつの間にか諦めてしまったことはありませんか？自分にはできそうもないと決めつけて、やろうとしていないことはありませんか？今ならまだ十分間に合います。思い切って始めてみましょう。

話を全学年へ向けて、に戻します。

先生方は、部活動指導や研修で忙しい中、50を超える夏期講習の講座を準備してください

ました。進学に向けた実践講座、授業の復習に重点を置いた講座、知的欲求にフォーカスした講座、生徒諸君の目的に合わせて積極的に参加することをお勧めします。

また、勉強や部活動だけでなく、いろいろなボランティアに参加してみるのもいいでしょう。できれば、親を説得して費用を出して貰って、東北や九州の被災地に行って来るのもいいでしょう。また、ボランティアは難しくても、現地の様子を見てくるだけでも、感じることもあると思います。

とは言え、遠いしお金も掛かるので、一日だけのボランティアをやってみるのもいいでしょう。それも難しいなら、地域の小学校の学童保育のお手伝いや、清掃活動のお手伝いをする事だって立派なボランティアです。

あるいは沢山の本を読んでみるのもお勧めです。定期刊行されている図書館便りで図書委員が薦めている本を読んでみるのもいいでしょう。

そこには思いがけない発見や、一生を左右するかも知れない出会いが、きっとあると思います。

一生懸命に打ち込んでこそ、見えてくるものがある。それを見つけられるのが夏休みです。たとえ見つけられなかったとしても、一生懸命に打ち込むことこそが大事です。高校生だからこそできる今、一生懸命に打ち込むことで必ず身に付けることのできる力、集中力と持続力は、みんながこの先どんな進路を歩もうとも、必ず生涯を生きてゆく力になります。

私も50歳の半ばを過ぎましたが、30歳や40歳の時の「夏」を思い出すことは、どうしてもできません。しかし、不思議なことに遠い昔、40年前の自身の高校3年間の夏休みについては、鮮明に思い出すことができます。

友達や先生方と共に汗をかいた部活動、部活動夏季合宿の宿舎でミーティング後、進路について顧問の先生と語り合ったこと、部活動と補習が終わり、友達と共に夕日に向かってペダルを漕いだ下校のシーン…。

高校生活って楽しいな。

高校の先生ってやり甲斐のある仕事だなあ。なんて、考えはじめたのも高校の夏休みでした。

私の人生、58分の「3」の夏でも、高校3年間の夏休みは、どうやら58分の「3」ではない重みを持っているようです。

若くて、感受性の強い時期、高校時代の夏の経験は、一生の「宝」にもなり得るのです。どうか、思い出深い夏休みを過ごしてください。

それでは、この後、生活指導部主任の〇〇 〇〇先生から、夏休みの過ごし方についてお話があります。最後まで集中を切らさないで聴いてください。

9月2日、今よりも一回りも二回りも成長したみなさんと再会できるのを、楽しみにしています。私からは、以上です。